

## 女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：福島県立医科大学（総括責任者：菊地 臣一）

## プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

- ①研究支援要員、ポストク、RA（リサーチ・アシスタント）制度の一元管理による研究活動及びキャリアパス支援の基盤整備
- ②研究リーダーの育成を目的とするメンター・アドバイザー制度の確立とリーダーシップ教育の導入
- ③国際レベルの研究に向けた在外研究と英語教育の推進
- ④男女共同参画意識の醸成を促す教育セミナーの開催
- ⑤次世代研究者の育成

(2) 研究を支援する者の配置計画

- ①研究支援員（4名）、RA（リサーチ・アシスタント）（2名）、ポストク（1名）
- ②メンター（10名）、アドバイザー（10名）、英語教育教員（3名）は学内兼務とする
- ③コーディネーター（1名）

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者のニーズに即した研究環境整備、きめ細かな意識啓発活動を行い、女性研究者の職位別採用数の目標を達成し、また、女性研究者の研究力の向上を図ったことは評価できる。東日本大震災の影響という特殊事情はあるものの、今後は、医学部女性研究者採用割合が低い原因分析を行うことで実効性の高いポジティブ・アクションを策定し、当該採用割合を上昇させることを期待する。

・**目標達成度**：医学部の女性研究者在籍者数の数値目標を達成したこと、女性教授が倍増したことは評価できる。しかしながら、震災の影響があったとはいえ、医学部女性研究者採用比率が所期の目標を下回っていることから、今後はより実効性の高いポジティブ・アクションの策定を強く望む。

・**取組**：他機関への波及効果も高い「優先順位のスコア化」を導入した研究支援員の配置、病児病後児保育園の開所、育児のための短時間勤務制度や産休に伴う欠員補充制度の構築、女性研究

者情報交換会の開催など、ライフイベント中の女性研究者のニーズに即したきめ細かな取組を実施したことは評価できる。

・**取組の成果（システム改革）**：優先順位のスコア化を導入した研究支援員配置、メンティーのニーズに沿ったコンサルトを可能とするメンター制度（リサーチ・コンサルト）の創設、メンターの育成を図ったキャリア・アップセミナーの開催といった特色ある取組を行い、女性研究者のニーズに沿った支援や研究力の向上を図ったことは評価できる。

・**実施体制**：理事長・学長のリーダーシップの下、機関全体としての実施体制が構築された。また、既存の女性医師支援センターとも連携し女性研究者支援を進めるとともに、外部評価委員会を設置し、取組の適切な見直しを行ったことは評価できる。

・**実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後は、本事業の実施母体であるキャリア・ラボと女性医師支援センターを統合し、女性研究者支援及び養成を進めている。また、自主経費により十分な予算を確保し、具体的な数値目標を掲げ、実施期間中のすべての取組を継続するとしていることは評価できる。今後は、より実効性の高いポジティブ・アクションの実施を期待する。